

# 京都教育大学FDニュース

No.94

2021年3月18日

京都教育大学FD委員会

\*\*\*\*\*

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、「2020年度第2回FD研修会」、「2020年度大学院教育学研究科授業アンケート」、「2020年度後期授業アンケート活用状況調査及び中間アンケート実施調査結果」について報告いたします。

\*\*\*\*\*

## 1. 2020年度第2回FD研修会の報告

2020（令和2）年度の第2回FD研修会が下記のように開催されました。今回の研修会では、新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度前期の講義の一部で対面授業の実施が困難になったことを受けて、オンライン授業のあり方に関連する内容としました。とりわけ、オンラインツールの活用の仕方について検討し、今後の授業改善の参考となる情報を共有していく機会とすることを目的としました。

【日時】2020年12月16日（水）13：00～13：50（教授会前）

【題目】オンライン授業に関する教員向けアンケートの報告と事例紹介

【講師】本学FD委員会委員 山口博明、樋口とみ子、小山宏之  
本学連合教職実践研究科 徳永俊太

【場所】F棟 大講義室2

当日は、まず、山口氏が、今年9月～10月にFD委員会が実施した「オンライン授業に関するアンケート」（専任教員対象）（Google Form 使用）の結果を報告しました。回答数42件のうち、70%以上の教員が使っているオンラインツールは、LiveCampusとGoogle Classroomであったことが示されました。

次に、このアンケートにおいて自由記述で寄せられた質問や意見を取り上げ、具体的に回答していくことも行われました。たとえば、「PDF版で公開した教材の文字が消えたことがあり、苦勞した」という意見に対しては、「ダウンロードすれば概ね正しく表示」されること、また「游ゴシック体」が有効なことなどが紹介されました。さらに、Google Classroomでの回収したレポートを名簿（学籍番号）順に並べ替えることへの対応として、エクセル・ファイルを活用して、学籍番号順に並んでいるものをGoogle Classroomの文字コード順にいったん揃えると作業効率が上がることも紹介されました。ほかにも、学内のWi-Fi環境の詳細や、学生相互の交流を充実させるようなGoogleの機能の活かし方、Google Classroomに提出されたワード版レポートの書式のズレへの対応方法などについて、具体的に提示されました。

次に、FD委員会委員が、それぞれの担当授業におけるオンラインツールの活用事例や学生からの反応などを紹介しました。山口氏は、実技を伴う科目でのオンライン授業実施の工夫とともに、実技課題の提出の方法に関する学生たちの声を紹介しました。次に、樋口氏からは、学生の声として、「授業によって使用するアプリ・媒体が異なっていたので、統一してほしい」という要望が最も多かったことが報告されました。また、小山氏は、実技に関する科目において、動画を用いたオンデマンド型の講義資料を作成する際の工夫（見やすさや音声・長さなど）を具体的に紹介しました。あわせて、それに対する学生の反応も紹介されました。

最後に、徳永氏から、「オンラインにおける学習のズレ」として、教員が想定する学習の内容と、学生が実際に行っている学習（あるいは、行わなければならないと考える学習）にはズレがあることが指摘されました。そのズレの存在を教員が自覚した上で、できるだけ学生たちの学習の様子を把握するとともに、教員側が求める学習の内容について、具体的な手順や評価基準を明確化して学生に提示する必要性が指摘されました。

講演会終了後のアンケートでは、「自分のオンライン授業をどう改善したらよいか具体的な視点をいただくことができました」、「学生の視点に立ち、改善可能な点を探り、誠実に学生の要求に応えると共に、教員の意見も明確に伝え、共に学問と生活を融合させていけたら…そんな気持ちで考えています」という意見などがありました。

参加者数は72名でした。ご参加いただき、ありがとうございました。

## 2. 2020 年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果

2020 年度の大学院教育学研究科の授業アンケートについて、報告致します。

実施した時期が後期後半であり、M2は修士論文執筆などであまり大学に来ていないため、回収率が3つの専攻で34%から44%の範囲にあり、低いことを考慮する必要があります。全体の平均値が36%であり、昨年度の平均値の43%と比べて、低いことがうかがわれます。コロナ禍の影響があるかもしれません。

授業への取組の意欲については、高いことが示されていますが、授業種別により若干の差異が見られます。「学校教育実践総論」がやや低い傾向が見られます。

満足度も概ね高いのですが、「学校教育実践総論」がやや低い傾向が見られます。「学校教育実践総論」は、全ての専攻で履修する選択必修科目ですので、院生のニーズとの関係でうまくマッチしていなかったのかもしれない。

難易度については、全体では6割強の回答が、難しさを感じています。とりわけ、「特別演習」は難易度が高いですが、その一方で「学校教育実践総論」は易しいとの回答が5割を超えています。

また、概ね、授業は体系的で良くまとまっていて、教員は受講生の理解や反応を受けとめながら進めていたことが見いだされます。

そして、教員となる上で（教員にとって）役立つと、全体では捉えられていますが、授業種別により捉え方の差異が見いだされます。

受講生がストーリーマスターと現職教員で構成されている授業に対する自由記述では、「互いに切磋琢磨できてよい」「現職教員だからこその視点や現場の意見、現状を知ることができてとてもよい学びにつながる」といったメリットを上げた記述が多いですが、「（ストーリーマスターと現職教員が）一緒に授業を受けるよさが生かしきれていない」などの不十分さを指摘する記述もありました。

その他の授業改善に対する自由記述は多様な内容でしたが、オンライン・リモート授業に対する問題点などの指摘もありました。

今後の課題としては、前期にも実施し、M2の回答者数を増やすことがあります。また、教職大学院への移行を踏まえて、大学院生の授業アンケート項目の見直しや現行の教職大学院スタッフと合同でのFD研修を企画することが必要であると思いました。

## 3. 2020 年度 後期授業アンケート活用状況調査及び 中間アンケート実施調査結果

前後期の授業後半に実施をお願いしている授業アンケートについて、返却されたアンケート結果の活用状況の調査を行いました。同時に2020年度の授業中間アンケート調査も行いましたので、結果を合わせてご報告します。今年度は用紙の配布に加えて、Google Formによるwebでの回答も受け付けました。なお、アンケートの回収枚数は51枚でした（Google Formによる回答、9件；参考、昨年度は紙面のみで62枚）。

### I. 授業アンケート（期末実施分）の活用状況について

問1. 過去の授業アンケート結果を2020年度後期の教育学部の授業に反映させている。

「はい」→43 「いいえ」→3 「過去に未実施」→5 「無回答」→0

問2. 授業に反映させていない理由についてお聞かせください。

・担当授業が変更となったため

問3. 授業に反映された内容についてお聞かせください。（複数回答可）

回答区分	回答数	反映した数(43)に対する比率
時間外の学習時間を見直した	11	25.6%
意欲的に取り組めるよう対応した	13	30.2%
テーマ・領域を見直した	5	11.6%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	11	25.6%
難易度を見直した	19	44.2%

体系的でまとまった授業を心掛けた	9	20.9 %
授業の説明をわかりやすくした	15	34.9 %
テキスト（配布資料など）のレベルを見直した	8	18.6 %
速度（進度）を見直した	12	27.9 %
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	15	34.9 %
その他	3	7.0 %
<b>【その他：回答内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの活動時間を増やした。</li> <li>・パワーポイントの文字色や空欄をわかりやすくした。</li> <li>・グループワークのやり方など。</li> </ul>		

8割以上の先生方が、前年度等に実施した授業アンケート結果を授業に反映させていると回答しています。反映させた内容は、「難易度を見直す」、「授業の説明をわかりやすくする」など受講生の理解度に合わせる工夫と、「受講生の理解や反応を受けとめる」、「意欲的に取り組めるように対応をする」、「速度（進度）を見直す」など受講生への配慮が多く見られました。その他の回答や自由記述の回答も含め、授業アンケート結果を授業改善に役立たせる方法は多くあります。受講生のやる気を引き出す魅力ある授業づくりのために、1人でも多くの先生方に授業アンケートの結果をご活用いただければ幸いです。

## II. 2020年度後期教育学部 授業中間アンケートの実施結果調査について

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。

「はい」→36 「いいえ」→15

問2. 授業中間アンケートをしなかった主な理由についてお聞かせください。

理由：「独自のアンケートを行なっている」

- ・毎回の感想のなかできいているため。
- ・初回時にアンケートを実施し学生の希望要望を反映させている。

理由：「受講生の数」

- ・受講生が1～2名なので直接聞いたから

理由：「時間がない」

- ・時間がとれなかった。(2名)
- ・実施時間を確保できなかった。
- ・授業時間が限りある中でわずかな時間もおしいので。

理由：「その他」

- ・期末にするアンケートのみでも十分と思った。
- ・半期で今季かぎりの為

問3. 使用した様式について、お聞かせください。(中間アンケート実施者のみ)

「FD委員会の様式」→32 「独自の様式」→4

問4. 中間アンケートを実施した結果について、お聞かせください。(中間アンケート実施者のみ)

「意義があった」→19 「どちらかという意義があった」→15

「どちらかという意義がなかった」→2

問5. 授業中間アンケートの結果について、受講生と話し合ったり、言及したりされましたか。

(中間アンケート実施者のみ)

「はい」→29 「いいえ」→5 「回答なし」→2

問 6. 授業へ中間アンケート結果を反映された内容について、お聞かせください。(複数回答可)

回答区分	回答数	反映した数 (37) に対する比率
時間外の学習時間を見直した	8	22.2 %
意欲的に取り組めるよう対応した	7	19.4 %
テーマ・領域を見直した	1	2.8 %
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	6	16.7 %
難易度を見直した	10	27.8 %
体系的でまとまった授業を心掛けた	6	16.7 %
授業の説明をわかりやすくした	20	55.6 %
テキスト (配布資料など) のレベルを見直した	8	22.2 %
速度 (進度) を見直した	11	27.8 %
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	18	50.0 %
その他	5	13.9 %
<b>【その他：回答内容】</b> ・興味を持たせるように努めた ・学習活動のバリエーションを増やした ・Google Classroom の使い方なども学生の意見を取り入れた		

問 7. FD 委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について、お聞かせください。

「改善の余地あり」→7 「現状のままでよい」→37 「回答なし」→7

【「改善の余地あり」回答者の自由記述】

- ・Q2「わかりやすさ」を問う設問について、学生の多くは難易度とわかりやすさを区別して評価することが難しいことが予想される。例えば、説明が下手であっても、そもそもの内容が簡単であれば、説明がわかりやすいと誤認する可能性がある。Q2の文言は「Q1で答えた難易度を考慮した時に、この授業の説明はわかりやすいですか?」とする方が良いのではないかと感じた。

36名の先生方に中間アンケートを実施したと回答して頂きました。実施された先生の9割以上が中間アンケートに「意義があった」もしくは「どちらかというとも意義があった」と回答しており、中間アンケートの実施が授業改善に有効であったことがうかがえます。アンケート結果を受けて改善した内容として、「説明をわかりやすくした」、「受講生の理解や反応を受けとめるようにした」、「難易度を見直した」、「速度(進度)を見直した」、という回答が多く見られました。また、その他の回答では「Google Classroomの使い方なども学生の意見を取り入れた」という意見もありました。今年度は、オンライン授業が展開されたことで、オンラインツールのより有効な活用方法を模索している先生も多いと思われます。中間アンケートの利用や授業の中での学生との積極的な意見交換により、使い方の改善を図って頂くのも良いかと思えます。

中間アンケートの設問については、FD委員会の様式を利用された先生の多くが現状のままでよいとお答えになっていましたが、設問によっては学生の解釈に誤解が生じる可能性がある表現があるので、設問の文言の工夫をする余地があるのではないかなどのご意見も頂きました。

\*\*\*\*\*

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：中(委員長)、山口(副委員長)、藤岡、樋口、小山  
(事務担当：河原田、村田、長谷川)